

OSS管理手法に関する事例集の拡充

- 令和3年度もOSS利活用に関するヒアリングおよび机上調査を実施。
- 2021年4月21日に公開した「OSSの利活用及びそのセキュリティ確保に向けた管理手法に関する事例集」に追記。

企業・組織	事例の概要
SCSK	意図しないOSSが混入していないかを検査するOSS混入検査システム、安全性を確認したOSSを登録し、OSS調達時に利用できる選定調達システムを構築。また、良質なOSSの選定のため、独自のOSS評価結果をレーダーチャートで可視化するシステム（OSS Radar Scopeとして公開）を開発し、OSS利活用に係る課題やリスクに対応している事例。
OSSTech	中小企業のシステム開発でも構成管理が可能な例として、ビルドシステム等のOSSに備わっているパッケージ管理システム等の機能を活用しながら、ソフトウェアの依存関係を開発者自らが管理し、省力化及び効率化した構成管理を実施している事例。
三菱電機インフォメーションシステムズ (MDIS)	通信キャリア向けにOSSを含んだソリューションを提供する際、OSSコミュニティによるサポート終了のリスクや、OSSを長期間利用する上での脆弱性管理やアップデート対応に係るコストの考え方等について、顧客と事前に合意することの重要性を示した事例。
NEC PSIRT	PSIRTを設立し、CVE Numbering Authority (CNA) としても活動を開始。脆弱性情報の収集、対応方針の整理、対応の社内調整を行っている。また、開発するシステムの構成情報を登録し、構成情報とともに脆弱性対策の有無及び報告を管理するシステムを構築・運用することで、構成管理と脆弱性対策の効率化、対策漏れ防止を実施している事例。
ラキール	あるOSSでの商用利用を制限するライセンス変更をきっかけに、利用しているOSS全てをチェックするために、ツールを利用。従来のExcel管理による管理漏れを防止し、ツールによって早い段階で危険なOSSを把握できるようになった事例。